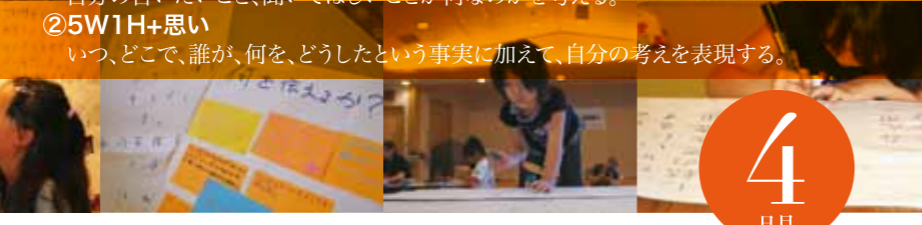


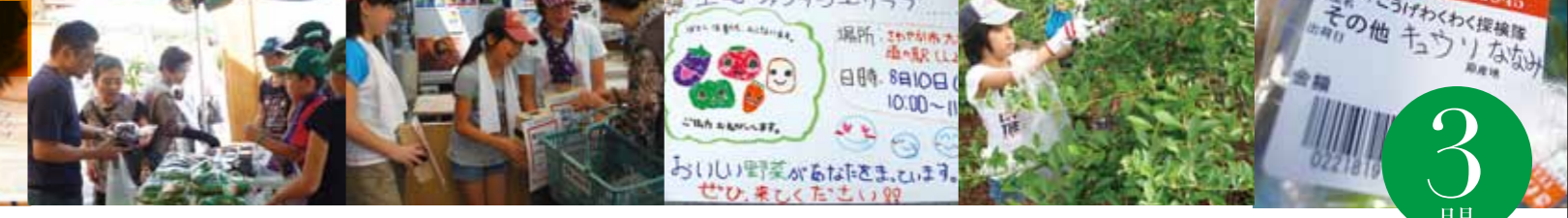
# 考えてみよう

さまざまな体験を通じて、知ったこと、気付いたこと、感じたこと。それぞれの思いをまとめ、班ごとに壁新聞を完成させていきました。

- ポイント**
- ①何を伝えたいか。  
自分の言いたいこと、聞いてほしいことが何なのかを考える。
  - ②5W1H+思い  
いつ、どこで、誰が、何を、どうしたという事実に加えて、自分の考えを表現する。



# 体験してみよう



## 3 日

### 農家体験②

8月10日(水)朝6時、まだ眠たい目を擦りながら、アグリマンの皆さんと二階に農産物の収穫に出発。子どもたちは、キュウリ(東上・茂呂さん)とブルーベリー(中村・中さんのコース、ナス(原井・福田さん)とゴボウ(上唐原・南さんの)のコースに分かれて町内各地の畑を目指しました。

現地では、畑を提供して下さった農家の方が、それぞれ先生となって、子どもたちに手順を説明しました。

ナス畑の福田先生は「ナスにはトゲがあるので、実を掴むようにしてください。出荷用のナスは、20cm以上のもので3本選んでください」など、丁寧に説明してくれました。また、ゴボウ畑では、南ファームの勝田先生によるゴボウの掘り取り機の実演もあり、子どもたちは、手作業で掘り取るの大変さを実感していました。その後、ゴボウの出荷準備を行っている作業所(宇野)を見学。最近話題を呼んでいるゴボウ茶も試飲させていただきました。

### 出荷準備〜農産物の袋詰めとラベル貼り

ふれあいの家に戻り、収穫した農産物の袋詰め作業を行いました。農産物の袋は、品目ごとに異なります。キュウリとナス、ゴボウは専用のビニール袋に、ブルーベリーはプラスチックの容器に詰めていきました。単純そうな作業ですが、収穫した野菜が大きすぎて袋が破けたり、作業が難航する子どももいました。収穫の段階から、出荷のことをきちんと考えておく必要があります。袋の口は、アグリマンの宮崎先生が準備してくれた「シーラー」を使って閉じていきました。子どもたちは、シーラーを前に初めは試行錯誤していましたが、すぐに慣れた手つきで上手に使えるようになっていました。

### 4 日

8月21日(日)午前中、子どもたちは、これまで体験したことのとまとめ作業を行いました。5つの班ごとに感想などを取りまとめ、子ども記者講座で学んだことを活かしながら、壁新聞を仕上げていきました。スタッフが各班のファシリテーターとなり、子どもたちの考えを引き出しながら、グループワークを進めていきました。午後からは、いよいよ保護者の方々をお招きしての発表会。作成した壁新聞を使って、体験から学び感じたこと、自分ができることなどを発表しました。

「一番心に残ったのは、野菜の収穫と販売体験。収穫は大変だったけど、売れたときに嬉しいということが分かった」

「子どもマルシェで、売上を伸ばすのが難しかった。だから、野菜を売る人の気持ちがよく分かった」

「私たちが野菜を食べることができているのは、育てている人がいるからで、感謝したい」

「大人になったら自分で野菜を育てて食べたい」

「郷土料理は、私たちが次の世代に教えないとなくなってしまうので、今回の体験を活かして、にぎいの伝統を守っていききたい」

「ロープの結び方を、忘れないように練習したい。そして、ロープで人の命が救えることを、みんなに教えていきたい」

「募金で困っている人々を助けることができると思う。少しでも役に立てたい」

「自分でできるボランティアをしたい。改めて仲間と協力する大切さを学んだ」

「新聞づくり大変だったけど楽しかった」

見ている大人は、子どもたちの緊張した表情や戸惑う様子を、固唾をのんで見守ったり、また、全く臆することなく流暢に話す子どもに感心させられたりと、「喜一憂していました。そして、各班の発表が終わるたび、子どもたちの懸命さに、温かい拍手が贈られました。」

発表会の終了後、子どもマルシェと街頭募金で皆さんからお預りした義援金の受け渡し式を行いました。子どもマルシェの売上は上田花奈さん(唐原小から鶴田町長に)、街頭募金は佐矢野嵩史くん(西吉富小)から社会福祉協議会の田島会長に、それぞれ手渡されました。鶴田町長から「お金を手に入れるというのは大変なことであり、今回の探険隊で体験したことを、人生のどこかで役立ててほしい。心の糧として活かしてほしい」と子どもたちにメッセージが贈られました。

じめ価格が印字されたラベルを用意し、そこに商品名と子どもたちのニックネームを記入していききました。ラベルを袋に貼って準備完了です。移動用のコンテナに農産物を詰め込み、マイクロバスに乗せて、ふれあいの家京築を後にしました。

### 子どもマルシェオープン

初めての販売体験、自分たちが収穫した農産物、どうしたら買ってもらえますか?

子どもたちが収穫した農産物を、自分たちの手で直接販売する「子どもマルシェ」を、さわやか市大平と道の駅しんよしとみの2カ所にオープンしました。「買ってもらうためにはどうする?」「お客さんに伝えたい事は何?」など、アグリマンやスタッフからアドバイスを受けながら、初めての販売体験に臨みました。

始めのうちは照れや戸惑いがあり、うまく声を出せずにいた子どもたちも、買ってくれるお客さんの笑顔に触れるうちに「ぼくたちが、今日、早起きして収穫した新鮮野菜です」「売上は東日本大震災の被災地に寄付します」など、少しずつ大きな声が出るようになっていきました。

約90分間の子どもマルシェでしたが、準備した農産物のほとんどを売り切ることができました。子どもたちからは「モノが売れる仕組みが分かった」「初めて物を売った。すごく楽しくかった」などの感想も聞かれました。

### 街頭募金

東日本大震災被災地に向けて「きつと、自分たちにもできることがあります」子どもマルシェと同時に進行で、街頭募金を行いました。皆さんからお預かりした募金は、全額、東日本大震災の復興支援のために、被災地へ送ります。子どもたちは「ご協力お願いします」「被災地に届けます」と、スタートと同時に声を張り上げていました。そして、子どもたちにも、立つ場所を変え、隊列を変え、効果的に募金してもらええる方法を考え、工夫していました。

猛暑の中、頑張る子どもたちの姿を見て、御高齢の方を中心にたくさん募金が集まりました。一所懸命に呼び掛ける声に反応してくれる人がいたとき、心底嬉しそうなお子どもたちの表情が、とても印象的でした。

●子どもマルシェ売上	12,400円
道の駅しんよしとみ	5,500円
さわやか市	6,900円
●街頭募金	25,945円
道の駅しんよしとみ	10,392円
さわやか市	14,653円
<b>合計</b>	<b>38,345円</b>

全額、東日本大震災の復興支援として、被災地へお届けします。



「協力をいただきました皆さん、本当にありがとうございました。」

全ての任務を完遂した子どもたちに、田島会長から修了証が授与されました。来春、小学校を卒業する6年生は「修了証をもらえて嬉し。学んだことを、大人になっても忘れずに活かしていきたい」と話してくれました。

いつか子どもたちが成長して大人になったらこの探険隊で出会った人、学んだこと、感じたいことも大切なことです。これからもさまざまな体験学習プログラムを通じて、子どもたちの地域への愛着や責任感を育てていきたいと考えています。

常慶忠一さん(東上) ありがとうございます。

8月22日月に、常慶忠一さん享年69歳がご逝去されました。子ども記者の先生「へんしゅう親分」として4日間、子どもたちの指導に当たってくださいました。

発表会の後、常慶さんから頂戴した「上手下手は別の話。一生懸命やれば皆感動してくれる。体験したことを心に留めて、今後活かしてほしい」という子どもたちへのメッセージはみんな受け継いでいきます。

本当にありがとうございます。

こうげわくわく子ども探険隊事務局一同